

富山高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	技術経営(MOT)論		
科目基礎情報								
科目番号	0013		科目区分		専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2			
開設学科	制御情報システム工学専攻		対象学年		専1			
開設期	前期		週時間数		2			
教科書/教材	資料を配布する。							
担当教員	清 剛治							
到達目標								
知識基盤社会において、グローバルに競争優位性をもたねばならない個別経営主体（企業）においては、新たな経済的価値を創出していく戦略的マネジメントが求められる。特に富山県地域産業の基盤を担う製造業では、技術と経営の本質を理解し、技術に立脚したビジネス展開をマネージできるMOT人材が強く求められている。このような自社固有の技術を経営資源と認識し、戦略性を持って経済的価値を高めていけるような知識を有する人材の育成を、本講義で目指すものである。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1		技術経営の基本について理解が正しくできている。		技術経営の基本について理解ができている。		技術経営の基本について理解できていない。		
評価項目2		ものづくりの基本的流れについて正しく理解できている。		ものづくりの基本的流れについて理解できている。		ものづくりの基本的流れについて理解できていない。		
評価項目3		ものづくりの現場作業の実務（正しい計測・データ処理）が正しく遂行できる。		ものづくりの現場作業の実務（正しい計測・データ処理）が遂行できる。		ものづくりの現場作業の実務（正しい計測・データ処理）が遂行できていない。		
学科の到達目標項目との関係								
ディプロマポリシー A-2 JABEE A2								
教育方法等								
概要		この科目はグローバルに展開する大手通信企業で技術マネジメントを担当していた教員が、その経験を活かし、研究開発マネジメント、知識創造、イノベーション創出について授業を行うものである。 グローバル社会において、いかにしてローカルな競争優位を成すかを技術経営の側面から考えていくことを目的としている科目である。それは、技術立国を目指す我が国の企業経営が意識すべき方向性を認識・理解することにもつながっているものである。						
授業の進め方・方法		本講義においては、事前に提示する課題を学生がごなし報告することで理解度を高める。この課題は翌週の講義とリンクしており、一種の反転教育的に、理解を深化させる構成で実施する予定である。また、現代社会の動向を抑えておくことが必要なため、新聞や経済雑誌などの情報に随時、触れておいてほしい。						
注意点		上述の課題に基づく学生側からの報告が求められる。シラバス内容については、年度当初のガイダンス時に詳細を説明する。市場経済状況は常に変化しているので、講義内容も市場変化を考慮し展開する。						
授業の属性・履修上の区分								
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス			本講義の意義と全体概要。		
		2週	導入講義：技術は常に雇用を破壊する 近未来の技術社会			MOTが理解できる1。		
		3週	企業経営の基本的視点と技術経営の背景と概念①：企業経営と技術経営			MOTが理解できる2。		
		4週	企業経営の基本的視点と技術経営の背景と概念②：技術開発と経営の流れ[HONDA]			MOTが理解できる3。		
		5週	経営と技術環境の不確実性①：グローバルな技術環境			MOTが理解できる4。		
		6週	経営と技術環境の不確実性②：技術で勝って市場で負ける			ものづくりが理解できる1。		
		7週	イノベーションの基本的概念と知識創造①：イノベーションと知識創造			ものづくりが理解できる2。		
	8週	イノベーションの基本的概念と知識創造②：ケース・本田総一郎			ものづくりが理解できる3。			
	2ndQ	9週	研究開発のマネジメントと市場化のマネジメント①：R&Dと市場化			ものづくりが理解できる4。		
		10週	研究開発のマネジメントと市場化のマネジメント②：意味的価値の創造			ものづくりが理解できる5。		
		11週	技術経営に係る現実課題への対処①：演習課題の提示			演習課題。		
		12週	技術経営に係る現実課題への対処②：課題報告（プレゼンテーション）			演習課題。		
		13週	ケース・スタディ①			ケース・スタディ。		
		14週	ケース・スタディ①			ケース・スタディ。		
		15週	期末試験			プレゼンテーション。		
16週								
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	

総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	80	0	0	0	0	80
専門的能力	0	20	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0